

1. 件名：特定原子力施設監視・評価検討会（第90回）に係る面談（2回目）
2. 日時：令和3年4月12日（月）14時30分～15時50分
3. 場所：原子力規制庁18階会議室
4. 出席者
原子力規制委員会
伴委員、田中委員
原子力規制庁
櫻田原子力規制技監
原子力規制部 東京電力福島第一原子力発電所事故対策室
竹内室長、澁谷企画調査官、岩永企画調査官、久川係員、塩唐松係員
福島第一原子力規制事務所
小林所長（テレビ会議システムによる出席）
東京電力ホールディングス株式会社 福島第一廃炉推進カンパニー
小野CDO他プロジェクトマネジメント室5名（テレビ会議システムによる出席）
福島第一原子力発電所11名（テレビ会議システムによる出席）

5. 要旨

○東京電力ホールディングス株式会社（以下「東京電力」という。）から、次回（第90回）特定原子力施設監視・評価検討会（以下「検討会」という。）の議題に関し、資料に基づき以下の説明を受けた。

- 福島第一原子力発電所における LCO 適正化の検討状況について
- 1号機 PCV 水位低下に向けた計画について
- 3号機原子炉注水停止試験結果（速報）及び
原子炉注水停止試験時の MSIV 室内の状況について
- 2号機シールドプラグ高濃度汚染への対応計画について
- 高性能容器（HIC）のβ線放射線劣化について
- 一時保管エリアにおける管理区域内漏えい事象に係る対応状況について
- 2月13日の地震によるタンクへの影響確認の進捗状況について
- 2月13日の地震に対する設備の追加点検及び耐震評価の検討状況について

○原子力規制委員会及び原子力規制庁は上記内容を確認するとともに、以下のとおりコメントを行った。

【1号機 PCV 水位低下に向けた計画について】

- 現時点においてもサプレッションチェンバが損傷して内包水が漏えいしたとしても、原子炉建屋1階まで水位が上昇しない旨を追加して説明すること。

【2号機シールドプラグ高濃度汚染への対応計画について】

- バタフライ弁の開閉状態を示すこと。
- ガンマカメラによる測定結果について、コントラスト幅が狭く、どこに高い線源があるのか判別しづらいため、コントラストを広めに設定する等工夫を行うこと。

【高性能容器（HIC）のβ線放射線劣化について】

- 炭酸塩スラリー密度について、計算過程も含めて算出根拠を示すこと。

【一時保管エリアにおける管理区域内漏えい事象に係る対応状況について】

- 物揚場排水路中及び港湾内における放射能濃度トレンドにおいて、高濃度値が観測された原因として考えられる天然核種の種類等の情報を示すこと。
- 長期保守管理計画において、一時保管エリアのコンテナの保全方式を「事後保全（BDM）」と設定していた根拠について示すこと。
- 屋外の瓦礫等・使用済保護衣等一時保管エリアの点検に係る優先順位の考え方及び対応スケジュールについて示すこと。

○東京電力から、コメントについて検討の上、検討会に向けて対応が必要なものについては、適切に対応する旨回答があった。

6. 資料

- 1FにおけるLCO適正化の検討状況について（案）
- 1号機PCV水位低下計画について（案）
- 3号機原子炉注水停止試験結果（速報）及び原子炉注水停止試験時のMSIV室内の状況について（案）
- 2号機シールドプラグ高濃度汚染への対応計画について（案）
- 高性能容器（HIC）のβ線放射線劣化について（案）
- 物揚場排水路 事故事象報告について（案）
- 地震によるタンクへの影響確認進捗状況（案）
- 福島第一原子力発電所 2月13日地震に対する設備の追加点検及び耐震評価について（案）
- 福島第一原子力発電所 中期的リスクの低減目標マップ（2021年3月版）を踏まえた検討指示事項に対する工程表
- 特定原子力施設監視・評価検討会における『過去のコメント対応状況』の対応について（案）